

「生物多様性条約成立に至る二つの背景

- 人口爆発・飢餓の先に見える種子戦争とNATO・EU・冷戦終結 -」

江刺洋司先生(東北大学名誉教授)

江刺先生は「生物多様性保全条約」の起草に関わるため、国連から委員として参加を要請され、その締結までにご尽力されました。

この条約案を作成する過程では、各国の利害が対立し、裏では激しいやり取りがありました。

その構造は先日行われましたCOP15における対立と共通するものがあるそうです。

今回の特別講演では、生物多様性保全条約の締結に至るまでに何があったのか、当時何が問題であり、各国を妥協にいらせるのに江刺先生がどのように寄与したのか、といった、関係者でなくては知れない情報を交えて、お話していただきます。

今回このようなご講演をしていただくことが出来たのは、江刺先生に「若い学生さんや指導的立場にある教員にも、歴史的歩みと真理を伝えたい」という強いお気持ちがあつてのことです。一人でも多くの方にご参加いただけるよう、ご検討ください。

なお、江刺先生に上記の講義をしていただくきっかけは、リベラルアーツ生命と環境7「大気と水」の中で諫早干拓の問題を扱っており、それに関連して江刺先生に「有明海の荒廃と修復—What?Why?How?—」というタイトルでゲストスピーカーとしてご講義いただくため、そのついでに(といつてはなんですが...)上記の裏話もしていただくことになりました。

LA「大気と水」ではすでに、諫早裁判の原告(弁護士事務局長)と被告(農水省)の方に来ていただき、諫早干拓が有明海に及ぼす影響についてそれぞれの立場から語っていただきましたが、江刺先生のご講演では、有明海の荒廃の原因は諫早干拓ではなく海苔の養殖にあるという、原告とも被告とも違う内容でご講義いただき、この諫早問題のまとめとする授業にと考えております。こちらは共通講義棟2号館102で2月1日10:40~行われますので、ご興味のある方は、ぜひご参集ください。

なお、受講学生以外で、午前の授業に参加希望の方は、配布資料の準備がありますので、1月26日までに長谷川(hasegawa.naoko@ocha.ac.jp)まで連絡ください。

■ 詳細

日 程:平成22年2月1日(月)13:30 - 15:00

場 所:共通講義等1号館302室

対 象:学部生・大学院生・一般

申 込:不要(単位取得授業ではありません)

諫早湾のランドサット画像(2001年) ©GFDL

Attention!!

この講演は、LA「大気と水」で行ってきた有明海の荒廃の問題や、諫早問題のまとめとなります。LA「大気と水」の授業(江刺先生ゲスト講演)は同日の10:40-12:10に共通講義棟2号館102室で行われますので、ご興味のある方は、ぜひご参集ください。

なお、該当科目に履修登録している学生以外で、午前の授業に参加希望の方は、配布資料の準備の関係上、1月26日までに長谷川(hasegawa.naoko@ocha.ac.jp)まで連絡ください。



- 東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅より徒歩7分
- 東京メトロ有楽町線「護国寺」駅より徒歩7分

お茶の水女子大学
Ochanomizu University